

数字でわかる多治見市80年の推移

PAST 1940~2020 FUTURE

令和2年4月1日現在

面積 令和2年 **91.25** (平方km) 昭和15年 35.14

人口 令和2年 **109,816** (人) 昭和15年 26,820 (国調)

世帯戸数 令和2年 **47,030** (戸) 昭和15年 5,544 (国調)

出生人数 令和元年度 **618** (人) 昭和15年 843

児童数 (小学生) 令和2年 **5,324** (人) 昭和15年 4,388

小学校数 令和2年 **13** (校) 昭和15年 3

医師数 平成30年 12月31日 **281** (人) 昭和15年 19

市道 平成31年 **661,532** (m) 昭和15年 91,395

自動車登録台数 平成30年 **85,557** (台) 昭和15年 106

多治見駅乗車人数 平成30年 **4,667,895** (人) 昭和15年 1,296,955

火災件数 令和元年 **22** (件) 昭和15年 5

市営住宅 平成30年 **1,140** (戸) 昭和15年 107

陶磁器生産 平成30年 **298億8,755万** (円) 昭和15年 12,089,480

予算 令和2年度 **416億7,300万** (円) (一般会計) 昭和15年 409,138



駅北庁舎で来庁者を案内するフロアマネージャー

Message

80th Anniversary Logo Production Story art director Sachiko Taniguchi



アートディレクター 谷口佐智子さん & Rainbow Inc. 代表取締役

**土** 岐川とその上に架かるいくつもの橋、背景には緑深い山、広がる青空。そして川から吹いてくる風。私にとっての多治見の情景は駅へと向かうときに通る橋だったり、馴染みの小さなお店がいくつも並ぶ昔ながらの商店街だったりします。

● 8のカラー 朝ドラのタイトルロゴを作ったときにも意識した、東濃ブルーを使用。多治見で見慣れた山の緑や、川や空の青を表

市制80周年記念の機運を高めていくため、シンボルマークを制作しました。制作者は、NHK連続テレビ小説「半分、青い。」のロゴデザインを手がけられた、多治見市出身のデザイナー谷口佐智子さんです。谷口さんから寄せられたメッセージを紹介します。

現しています。

● 0の輪のモチーフ 学生の頃、土岐川の河原で集めた陶片をイメージしました。陶器のまち、多治見のクラフト感溢れるロゴです。

● 多治見らしさ 陶器のまちとしての情緒があり豊かな自然にも囲まれています。田舎すぎず都会すぎないところが丁度良いです。散歩中に虫をみつけたり、市街に出ればお買い物も楽しめたりして、本当に住みやすいところだと思います。

● まちの変化 駅やその周辺がとてもきれいに開発されていてびっくりしました。商店街や川沿いには

昔ながらのレトロな雰囲気を生かしつつセンス良く再開発をしているおしゃれなお店も増えていて、毎回訪れるのが楽しみです。

● 80年という節目に 市制80周年おめでとうございます。地元である多治見市の周年記念シンボルマークを制作させていただき、大変光栄に思っております。

● これからの多治見市へ望むこと 独自の文化や風情のある景観を残しながら、さらに発展した魅力あるまちづくりを期待しています。多治見は大好きなふるさとです。私も微力ながら美濃焼やタイトルの魅力をもっと伝えていきたいと思っています。



TAJIMI 80TH 多治見市制80周年

Concept

シンボルマークは、橋から眺める土岐川、その背景にある緑深い山、広がる青空をイメージし、「0」の部分は、多治見市の象徴である美濃焼をイメージし、陶磁器の破片やモザイクタイルで表現しています。